

## 県連・商工会等による支援の動き 5/8~5/14

5/13 岩手県・山田町商工会、陸前高田商工会で労働相談会

▽18日=山田町商工会（10～15時）、▽19日=陸前高田商工会仮事務所（11～14時）

---

5/13 山梨県・笛吹市商工会が映画「津軽百年食堂」のチケットを無償で被災者に、収益の一部は義援金に

笛吹市商工会は、東日本大震災発生前の被災地などで撮影された映画「津軽百年食堂」（大森一樹監督）のチケット1000枚を購入した。映画の収益の一部は、日本赤十字社を通じて義援金として被災地に送られることになっており、同商工会は「チケット代が少しでも復興に役立てば」と購入を決めた。チケットは、県内で避難生活を送る被災者にも無償配布する。

映画は現在公開中。青森県弘前市で100年続く大衆食堂を営む家族の姿を描いている。弘前市や八戸市で昨年撮影されたが、公開直前に震災が発生。ロケ地となった海岸線も被災したという。同商工会は商工会員に配るほか、被災者には、市や社会福祉協議会を通じて配る。

---

5/13 山形県・寒河江市商工会などが農産物や観光地の安全をアピール

本格的なサクランボの収穫時期を前に、寒河江市で12日、商工会や農協などで構成する「寒河江市産業経済活性化緊急対策協議会」が設立され、農産物や観光地の安全をアピールする「安全宣言」が発表された。宣言の中で、サクランボを始めとする農産物は、県に行った調査結果から、放射性物質の影響はないと強調。会議では、県外に出荷する農産物に、市独自の「安全安心シール」をはることが決められた。

---

5/13 岩手県・陸前高田商工会、山田町商工会で労働関係相談会を開催

陸前高田商工会：▼労働・行政・生活相談会19、26日11～14時。高田町鳴石50の47、陸前高田商工会仮事務所。080・1667・5487

山田町商工会：▼岩手労働局出張労働相談18日10～15時町商工会。

---

5/13 山形県・朝日町地域振興発展会（朝日町商工会）が緊急経済対策でプレミアム付き商品券を発売

大震災発生を受けた緊急経済対策として、朝日町商工会の会員企業でつくる町地域振興発展会は19日、町と連携してプレミアム分を上乗せした商品券を発売する。

商品券は例年、10%のプレミアムで販売しているが、今年は震災の影響を考慮し、10%上乗せして20%とし、7月の発売時期を前倒しする。

千円券12枚つづりを1セット1万円で計千セット販売。発行総額は1200万円。購入は1世帯当たり5セットまで。町内の約80カ所で8月31日まで利用できる。19日午前9時から町商工会で販売する。

---

5/13 石川県・能登鹿北商工会などが震災の影響による誘客支援などを要望

能登鹿北商工会、七尾商工会議所など七尾市内の商工、観光、商店街関連の9団体の代表者は12日、同市役所で武元文平市長と懇談し、市内企業が東日本大震災による影響に見舞われているとして県内外への誘客や市民の需要喚起のためのプレミアム付き商品券発行に向けた支援など4項目を要望し、各団体の代表者が震災後の経営状況を紹介した。和倉温泉では、大型連休中の海外客が前年の2800人から90人に激減したことや、客室稼働率の伸び悩みを説明した。

---

5/13 長崎県・雲仙商工会などが被災地に支援物資

5月13日に雲仙市商工会、雲仙市、JA 島原雲仙、認定農業者協議会らが集めた支援物資を気仙沼市に搬入するため「雲仙市小浜町マリーナの雲仙公園裏岸壁」から出航した。

雲仙市の水産会社マルキ水産は、毎年6～12月ごろ三陸沖で操業し、30年以上前から気仙沼市を漁業基地にしている関係で、当地とは関わりが深く、今回の運搬はマルキ水産の太喜丸が無償で行う。

取りまとめは、雲仙市農業振興協議会が行い、地元産のジャガイモ、玉ねぎなどを中心に支援することとなった。

雲仙市商工会としても、平成23年4月27日付で会員に救援物資の提供を広く呼び掛けを行い、タオル、非常食品、食器類などの日用雑貨を支援物資として提供している。

（雲仙市商工会は、雲仙市からの要請を受けて、商工会会員に保存食品や日用品の提供の協力をお願いし、マルキ水産の太喜丸で支援物資を輸送しております）

---

5/13 山口県・和木町商工会が震災のチャリティーイベントを開催中

「ローズフェスタ」が22日、和木町の蜂ヶ峯総合公園で開催される。今年は、東日本大震災のチャリティーイベントとして開催。ローズウエディングで町内の1組のカップルが式を挙げるほか、ダンスや猿回し、ロックバンドの演奏など、多彩な催しが楽しめ、催しの多くで義援金を募る。

事務局を務める和木町商工会は「震災のチャリティーも兼ねているので、祭りを楽しみながら募金に協力してほしい」と話している。

---

#### 5/13 沖縄県・南城市商工会などが震災救援チャリティーコンサートを開催

岩手県に派遣された島尻消防本部の職員が被災地支援の体験を紹介し、「遠い沖縄からでもできる支援をしていこう」と呼び掛けたのを受け、南城市の6団体が連携した東日本大震災救援チャリティーコンサート（同実行委員会主催）が4月30日、南城市佐敷のシュガーホールで開催され、市内の音楽サークルなどが出演した＝写真。

実行委員会は市商工会、市女性連合会、市青年連合会、市PTA連合会、市区長会、市老人クラブ連合会、昼の部は、大里南小吹奏楽部、シルバーコーラスきらり、シュガーホールジュニアコーラスが軽やかな演奏や美しい歌声を響かせた。歌手の三枝万祐さんのコンサートもあった。

---

#### 5/12 宮城県・丸森町商工会イメージキャラ「しょこ丸」が完成。登米の専門学校生徒らが奮起。

宮城県丸森町商工会が地元の素材や技術にこだわったイメージキャラクター「しょこ丸」の着ぐるみを制作し、14、15の両日に町内で開く恒例イベント「丸森いち」で披露する。竹細工などの伝統技術を生かし、縫製は登米市の服飾専門学校が担当。東日本大震災の影響で完成が一時危ぶまれたが、「地域から元気を発信しよう」と関係者が奮起した。縫製を担う佐沼ファッション専門学校（登米市）が被災し、中断を余儀なくされたが、同校では、校舎を改修し、教室を片付けて4月下旬に授業を再開すると実習を兼ねた制作に着手。生徒3人と教職員が協力し納期に間に合わせた。

「しょこ丸」は、商工会が昨年、創立50周年を記念し、丸森の森をモチーフに誕生させた。植木や地元産品などを販売する丸森いちを本格始動の場とする予定だったが、商工会では一次県内の甚大な被害を考慮、開催の見合わせも検討した。しかし「皆がしぼんだら経済も良くならない。被害が少ない丸森から動きだしたい」（秋葉薫会長）と判断した。丸森いちは、丸森まちづくりセンター周辺で14、15の両日とも午前9時から開かれる。

---

#### 5/11 岩手県・山田町商工会、陸前高田商工会で労働相談

陸前高田商工会：▼労働・行政・生活相談会12、19、26日11～14時。高田町鳴石50の47、陸前高田商工会仮事務所。080・1667・5487▼岩手労働局就職支援ナビゲーター出張相談、12日11～14時、陸前高田商工会仮事務所

山田町商工会：▼岩手労働局出張労働相談11日10～15時、町商工会

---

5/11 埼玉県・八潮市商工会が義援金を日本赤十字社に寄託

八潮市商工会(斎藤勝会長)は10日、東日本大震災の義援金約1707万6718円を日本赤十字社県支部八潮市地区に寄託した。斎藤会長らが市役所を訪れ、日赤八潮市区長の多田重美市長に目録を手渡した。4月から約1カ月間、会員に呼びかけて計553件分が集まり、商工会青年部も街頭募金で集めた。

---

5/11 岩手県・山田町商工会が巨大テントで共同店舗をオープン

東日本大震災による津波で中心部が壊滅状態となった岩手県山田町の町商工会(阿部幸栄会長)が、支援物資のテントを活用した共同店舗をオープンする。設置場所は、今も多くのがれきが周囲に残る町役場近くの公園。町と商工会は「復興の足がかりに」と期待を込める。

商工会に加盟する約500事業所のうち、8割の約400事業所が店舗を失った。高齢化と後継難もあって、全事業所のうち1割が既に震災後の廃業を決め、見えない復興の道筋に、無力感さえ広がっていた。だが、国連世界食糧計画(WFP)から240平方メートルの巨大な食糧備蓄用テントを貸与されたことから一転、4月中旬、共同店舗として使う提案があり、出店を募ったところ、定数の4倍近い35店舗から応募が、抽選で食料・雑貨店、洋服店、文具店など9店が決まった。6月4日にオープンする予定。商工会の阿部会長は「すべてを失った今、可能性があるものはやるしかない。成功すれば、復興のシンボルになれるかもしれない」と話した。

---

5/11 福岡県・吉富町商工会が復興支援イベントを開催

東日本大震災の復興支援イベントが15日、吉富町の山国川河川敷で開かれる。主催する町商工会などはチャリティーバザーで販売する商品の提供を呼びかけている。

震災を受け、毎年恒例の「よしみワッショイ春まつり」を衣替えし、バザーの収益や会場に用意する募金箱へ寄せられた善意を義援金として被災地に送る。当日は、正午から東北産米おにぎりの配布、午後1時からお笑い芸人「たんぽぽ」のライブ、2時からうなぎの無料つかみ取りなどがある。3時から宮城、福島県から取り寄せた焼酎、漬物、みそなどが当たる無料抽選会も行われる。

---

5/11 宮城県多賀城・七ヶ浜商工会が「七ヶ浜町復興市」を開催

被災者支援と復興支援のため「七ヶ浜町復興市」が15日、七ヶ浜町の七ヶ浜町消防署隣の広場で開かれる。多賀城・七ヶ浜商工会七ヶ浜事務所などで作る実行委員会の主催。

町内の授産施設や鮮魚店、町に縁のある青果店、漬物店などが14の出店を出し、魚、野菜、豆腐などの物品販売や、焼きそばなどの模擬店を開く。新庄もがみライオンズクラブによるそばの無料試食などの炊き出しも行われる。会場でチャリティー募金を集め、七ヶ浜町に寄贈する。

---

#### 5/10 岩手県・山田町商工会、陸前高田商工会で労働相談

▽11日＝山田町商工会（10～15時）▽12日＝陸前高田商工会仮事務所（11～14時）▽18日＝山田町商工会（10～15時）

---

#### 5/10 宮城県・山元町商工会青年部員が和太鼓でまちに元気を

音楽の力で町を元気にしようと、東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県山元町の深山山麓少年の森で8日、「山もり元気 音祭り」が開かれた。町内の創作和太鼓集団「風雲乱打舞（らんだむ）」が企画。町内外の和太鼓や歌、踊りなどのグループに参加を呼び掛け、12団体が出演した。風雲乱打舞は、町商工会青年部員らを中心に2000年に発足。現在のメンバーは35人で「太鼓によるまちおこし」に取り組んでいる。震災による津波でメンバー5人が家を流されるなどの被害を受けた。この時期に太鼓をやることに、ためらいもあったが、メンバーの中から「いつまでも下を向いてばかりではいけない」という声上がり、2週間前に開催を決めた。代表の理容店経営伊藤さんは「全国の人たちから救援物資など温かい支援をいただいていた。これからは山元町の人たちが元気を出す番。自分たちが行動することで、前に進む第一歩になれば」と話した。

---

#### 5/10 岩手県平泉商工会青年部が中尊寺金色堂の記念参拝を計画、復興のシンボルに

「平泉の文化遺産」の世界遺産登録について国際記念物遺跡会議（イコモス）が「登録」を勧告したことを受け、平泉町の平泉商工会青年部は9日、会合を開き、県内外から住民ら約1000人を集め、7月3日に中尊寺金色堂で記念参拝を行うことを決めた。商工会青年部では昨年6月にも登録祈願の金色堂参拝を行い、町民を中心に500人ほどが集まった。この日の会合では、記念参拝を復興に取り組む東北全体のシンボルにしたいとの思いを込め、「県外にも広く呼びかけ、盛大に行いたい」との意見が相次いだ。

---

#### 5/10 北海道・大樹町商工会青年部が復興イベントを開催

大樹町商工会青年部と町観光協会、町は連休中の5日、姉妹都市の福島県相馬市など東

日本大震災被災地の復興を願い、歴舟川河畔でイベントを開き、義援金を募った。

会場には、国内屈指の清流・歴舟川をPRする恒例のこいのぼり236匹のほか、「応援してます」と相馬市へのメッセージを書いた垂れ幕を展示。町商工会青年部はこいのぼりを間近に見られるよう、高さ15メートルまで伸びる高所作業車を出し、親子連れの人気を集めた。

---

#### 5/10 宮城県・名取市商工会が地元住と復興を考える会を設立

東日本大震災で被災し避難所などで暮らす名取市閑上地区の住民が、復興の青写真づくりに向けた組織を結成し、独自に話し合いを始めた。将来の津波に対する不安や集団移転の要望などについて意見を述べ合うとともに、漁港を核とした産業振興など復興への夢を週1回のペースで語り合い、市の計画づくりに反映させたい考えだ。

結成したのは「どうする閑上」。名取市内の各避難所の代表や地元の商工会、漁協、水産加工組合、小中PTA、町内会の関係者ら十数人で構成される。

4月下旬からこれまでに3回、避難所の一つとなっている館腰小体育館で車座になって会合を重ね、閑上地区の津波防災対策や住宅地形成のあり方、閑上漁港の復活などについて意見を交わした。会では、地域住民の意見をまとめて復興プランをつくり、国に事業予算を要望することも視野に入れる。

---

#### 5/9 宮城県・亶理山元商工会で臨時経営相談窓口を開設

16、17日午前10時～午後3時、亶理山元商工会亶理事務所（亶理町）

---

#### 5/9 山形県・三川町商工会などが復興支援の「チャリティー菜の花イベント」を開催

町の花・菜の花をPRしようと、出羽商工会三川支所や町観光協会などでつくる実行委員会が主催する東日本大震災チャリティー菜の花イベントinみかわが5日、三川町の「いろり火の里」をメイン会場に開かれた。毎年恒例の「菜の花まつり」の名称を変更し、収益の一部を震災の被災者支援に役立てる。

---

#### 5/9 宮城県・大河原町商工会が被災地の特産品をセットにした「絆BOX」を販売

大河原町商工会は、東日本大震災で被災した亶理、山元両町などの商品を詰め込んだ「絆BOX」を販売している。収益金を被災地への義援金とする予定。山元町のこんにゃく、亶理町のあられをはじめ、白石市のうーめん、大河原町の梅加工品、柴田町の油麩（あぶらふ）井のレトルト食品、蔵王町のリンゴジュースなど県南1市5町の10品目をセット

販売する。商工会の担当者は「首都圏の人に県南地域の特産品を買ってもらい、近隣自治体の復興を支援したい」と話している。

---

5/9 茨城県商工会青年部連合会が都内で県産野菜の直売会を開催、安全性をPR。

原発事故による風評被害を払拭（ふっしょく）しようと、県商工会青年部連合会の主催で県産野菜の直売会が8日、都内で開かれ、生産者らが首都圏の消費者に安全性と魅力をPRした。「茨城あんしん野菜直売会」と銘打ち、東京都江東区亀井戸の商業施設「サンストリート亀戸」で開かれた。サツマイモやイチゴ、トマト、ネギ、シイタケ、ニラなど県内全域の野菜が並べられ、価格が市価の半額程度とあって主婦や家族連れでにぎわった。同連合会の篠塚会長は「まだまだ県産野菜の価格は例年に比べれば安いので、販売支援に力を入れたい」と強調した。

---

5/9 岩手県・山田町商工会、陸前高田商工会で労働関連相談窓口を開設

▽11日＝山田町商工会、野田村役場村民ホール（同）▽12日＝陸前高田商工会仮事務所（11～14時）

---

5/9 愛媛県・長浜町商工会が義援金活動

長浜町商工会は、商店連盟で各店舗に募金箱を設置し、集まった75,317円を日本赤十字社へ寄託。また、スタンプ組合ではスタンプ1冊について50円を義援金とし、集まった33,800円についても日本赤十字社へ寄託した。

---

5/8 千葉県・旭市商工会が「よこすかカレーフェスティバル」で復興への手ごたえ

国内各地のご当地カレーなどを集めた横須賀市恒例の祭典「よこすかカレーフェスティバル2011」が7日、神奈川県横須賀市で開催され、津波の被害を受けた宮城県岩沼市や千葉県旭市のほか、東京電力福島第1原発事故による風評被害が深刻な福島県会津若松市など、各地の自治体や商工会など計78団体・企業が89ブースを出店した。

カレーコンテストは、震災で被災した千葉県旭市のモツカレーが3位に食い込んだ。旭市は豚肉出荷量が全国4位だが認知度が低い。そこで昨年4月に市商工会がモツ部会を作り、モツ料理の研究を始めた。豚モツの名産化に賛同する飲食店23店舗を集めて会議をした2日後に震災に遭った。市商工会「モツ部会」の平野陽一部長は「実は参加反対の声もあった。3位になったので手土産ができた。これから“旭のモツ”をアピールする」と声に力を込めた。なお、売り上げの一は被災者への義援金として寄付される。

